

OKoTaC 通信

オコタック

2013年8月10日発行

NO.12



いろいろな国のことばで絵本を楽しむ講座
「どのようにして 読むのかな？」



「在日外国人相談の現場から
～貧困化と子どもの教育」

P 2 NPO活動報告(1)

ヒューライツ大阪・おおさか子ども多文化センター共催セミナー
第2回 「在日外国人相談の現場から～貧困化と子どもの教育」

P 3 NPO活動報告(2)

いろいろな国のことばで絵本を楽しむ講座 その1 「どのようにして 読むのかな？」

P 4 多文化な子ども@大阪のニュース

『はんまだん』

『子どもひろばはじめて体験ツアー2013 みんなであそぼう』

P 5 地域の子ども支援教室から⑫ 『多文化ほっとサロン/土曜子ども学習会』 (寝屋川市)

P 6 Air Mail メキシコ便り⑩ 『カンクン、コスメル島』

P 7 ころちゃんお役立ち情報(4)

『日本語指導に役立つ教材』『学校文書作成に役立つ教材』

P 8 イベント情報





おおさかこども多文化センター 活動報告（1）

ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センター 共催セミナー〔3回シリーズ〕 第2回「在日外国人相談の現場から～貧困化と子どもの教育」

6月22日、おおさかこども多文化センター、ヒューライツ大阪が主催する「貧困と教育」セミナーシリーズ2回目の「在日外国人相談の現場から～貧困化と子どもの教育」に参加しました。お話をしてくださったのは、35年にわたり横浜市で外国にルーツをもつ子どもたちの支援をされているNPO法人信愛塾のセンター長である竹川真理子さん。



竹川真理子さん

この信愛塾がある地域は外国人や外国にルーツをもつ子どもたちが多く、その在籍率が50～80%の保育園や小学校もあるとのこと。このような子どもたちが放課後次々と信愛塾にやってきます。勉強をしたり、ピアノを教えてもらったり、おやつを食べたり、遊んだり。国もさまざま、年齢もさまざま、在留資格も家庭環境もさまざまな子どもたちが集まっています。そして、みんな笑顔で元気いっぱい、まさに子どもたちにとって、とても大切な「居場所」なのです。

しかし、信愛塾では笑顔を見せ、明るい子どもたちが、学校では自分を出せないでいます。表面的なコミュニケーションをする日本語力はあっても、授業が理解できない、わからないから面白くない。自分の気持ちをうまく言葉で表せないから暴力で訴えてしまう…。彼らに必要なのは自分を出せる場所なのです。自分を見守ってくれる人がいる、勉強がわかる楽しさを味わえる、そして、自分が活躍できる場所がある。本来、このような「居場所」は彼らが一日の大半を過ごす学校の中にこそあるべきなのですが、今の学校現場はなかなかそこまで手が回らないのが現状のようで、時として学校側から信愛塾に子どもたちのフォローを頼まれることもあるそうです。

また、信愛塾には日々たくさんの外国人から切実な相談が寄せられます。国際結婚・離婚が増え、子どもの教育の問題をはじめ、在留資格の問題、経済的な問題、夫からのDVなど、年間600件寄せられるという相談の内容はどれも深刻なものばかりで、それらに対して学校や児童相談所、弁護士などと連携しながら奔走しています。

子どもたちにとって、日本で暮らす外国人にとって必要不可欠なこの信愛塾を運営していくのがいかに大変なことなのか、お話を聞かなかで、ひしひしと伝わってきました。なぜ行政はもっと支援をしないのでしょうか。

セミナーの最後には、全国各地からの参加者がそれぞれの地域での取り組みや問題点を報告し、情報交換をしました。その中のお一人、ご自身も子どものときに来日し、今、同じ境遇にいる子どもたちの支援に携わっているという方がおっしゃっていました。「ルーツを持っているからこそできる支援がある」と。信愛塾でも、信愛塾出身の子どもたちがスタッフとして後輩たちの支援をしているそうです。私は日本語教師ですが、今回のセミナーに参加して、これはもはや日本語を教えればよい、という単純な問題ではないことを痛感しました。では、日本語教師として、彼らをどのようにサポートしていけばよいのか、試行錯誤しながら粘り強く支援し続けていきたいと思えます。



（おおさかこども多文化センター会員 Y. S）



おおさか子ども多文化センター 活動報告（2）

いろいろな国のことばで 絵本を楽しむ講座 その1

「どのようにして 読むのかな？」（大阪市NPO・市民活動企画助成事業）

7月16日、大阪市総合生涯学習センターにて「いろいろな国のことばで絵本を楽しむ講座」を実施しました。

講師は東京・目黒区の図書館や小学校で、日本語を母語としない人たちと一緒に多言語による読み聞かせ活動をされている「多言語絵本の会 RAINBOW」の代表・石原弘子さん。7年前に地域の日本語教室の参加者たちとともにお話を始めた経緯や、外国語での読み聞かせをする中での気づいたことや工夫、また、ご自身も作成に関わった『目黒区子ども条例の絵本・すごいよ ねずみくん』の多言語翻訳・マルチメディア DAISY 版の紹介など、盛りだくさんの内容に、参加した44名の方々は熱心に聞き入っていました。以下は、参加された会員さんの感想です――



ブラジル出身の参加者と一緒に、ポルトガル語と日本語で交互に絵本を読みあう石原さん

石原さんはパワフルにご活躍だった！！

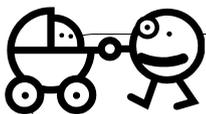
もしかしたら弁天町日本語勉強会で世話になっていたあの石原代表？かも・・・、と思いながら講座に参加させていただきましたところ・・・、やはりそうでした！

16年前、夫の赴任先から戻って私は再就職もままならず、「稼ぎもない私が電車賃払って会費払って何をやっているんだろう・・・」とうつうつとした状態の中で参加していた活動でした。自分も同じような経過を経てきた、と言いながら当時は東京にお住まいながら日本語ボランティアの日に大阪へ戻って来られているという石原さんのお話を、私は目を丸くして伺っておりました。そんな私も、一緒に勉強したペルーの青年たちと夜間高校の進学先を探してまわったり、小学校でブラジルやペルーの子どもたちの日本語支援をする中で、彼らにクラスメイトの前で絵本を母国語で読んでもらい共生の学びにつなげる取り組みを、ささやかながらもするようになっていきました。

今回の講座では実際にどのように読み聞かせをされているのかを実演していただき、またさまざまな資料の集め方等も具体的(赤裸々?)にお教えいただき本当にありがたく思いました。子どもを支えるお母さんたちにも元気になってもらいたい！母語を大切に思ってもらいたい！という石原さんの思いがピンピン伝わってきました。

何をするか以上に何をするためにどう動くのかを学んだ、心揺さぶられる学習会でした。ありがとうございました！！

（おおさか子ども多文化センター会員 Y.O）



「大阪市西区子育て情報ガイドブック」を作成中！

～すべての人に安心して子育てを楽しむための情報を～

現在、おおさか子ども多文化センターでは、日本社会の文化・習慣や社会制度がよくわからない人が大阪市西区で妊娠・出産・子育てをする時に役立つように、「大阪市西区子育て情報ガイドブック」を作っています。これは2013年度大阪コミュニティ財団の助成金をいただき行うもので、やさしい日本語・中国語・英語で作成します。

なぜ 私たちが西区の子育てガイドブックを作るのか？ それは、当NPOの事務所が西区にあるから。そして、西区は大阪市の中でも、子育て世代が多く住む区だからです。

このガイドブックが、地域の多文化共生社会の実現に役立てば嬉しいと思っています。できあがったガイドブックは、西区役所のホームページで公開される予定です。





『はんまだん』(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)



松原高校生徒によるサムルノリ

6月16日、大阪府立桃谷高校で「はんまだん」が行われました。「はんまだん」とは韓国・朝鮮語でひとつの広場という意味で、朝鮮半島にルーツを持つ高校生を中心に、さまざまな国にルーツをもつ高校生41名と引率の教師など33名が集いました。

高校生全員が自己紹介をしたあと、鮮やかな民族衣装を身にまとった松原高校の生徒が演奏するサムルノリで幕が開きました。初めは同じ高校の子どもとだけしか話せなかった生徒たちも、アイスブレイキングで歌を歌ったり、昼食の買い出しにコリアタウンに繰り出す

ころにはすっかり打ち解け、会話ははずんできました。「はんまだん」に参加した先生方も、子どもたちとは別にコリアタウンのフィールドワークをし、この地区の歴史を学びつつ「鶴橋」や「猪飼野」という名前の由来など、興味深い話をいろいろ聞くことができました。みんなでおなか一杯チヂミやトッポギ、キンパなどを食べたあとは、コリアNGOセンターの金光敏さんによるワークショップがありました。金さんは生徒たちに朝鮮人が登場する落語「代書屋」をかきかせながら、言葉の発音がなまっていたことから受けた屈辱の経験、それを必死で「学ぶこと」で克服してきた歩みなど、自らの生き立ちを語りながら2つの文化、特に2つの言葉を持つことのメリットを最大限生かしながら未来を生きていくことの重要性について熱く語りかけられました。金さんの話を熱心に聞いていた子どもたちにとってずいぶん元気づけられ、また他校の生徒との交流など、楽しい一日になったのではないかと思います。(H・K)



『こどもひろばはじめて体験ツアー2013 みんなであそぼう』

(こどもひろば主催)

毎週月曜日、大阪国際交流センターで活動している日本語学習教室「こどもひろば」が、7月20日午後、阿倍野スポーツセンターで、「こどもひろばはじめて体験ツアー2013・みんなであそぼう」というイベントを開催しました。

参加者は、米国、中国、韓国、タイ、ベトナムにルーツがある小学生から高校生まで13名、ボランティアが12名、付き添いに来た保護者も参加して、合計26名がいろいろなゲームやダンスで遊びました。ここには十三で活動している日本語学習教室「サタデイクラス」からも3人の中学生とボランティア2名が参加され、にぎやかな土曜の屋下がりとなりました。

自己紹介から始まったプログラムは、音楽を聞きながら歩き回り、音楽が止まった時にじゃんけんをして、負ければ勝った人の後ろに連なるという「じゃんけん列車」、風船やビーチボールをうちわなどで運ぶ「バルーンリレー」、簡単なひらがなの言葉を背中に書いて伝言していく「ゆびメール」など、みんな一生懸命に取り組みながらとても楽しんでいました。特に「ゆびメール」はひらがなの書き方がそれぞれの子どもの特徴がありすぎて、なかなかわかりにくくて困り果てている子どももいれば、横の子どもの手の動きが見えてしまって、答えが早くわかってしまった子などさまざまでした。このあと、アイスクリームやおかしを食べ、大人も一緒にジェンカを丸く円になりながら踊りました。初対面だった子どもたちも、別れる頃には母語の中国語で話したりしながらすっかり打ち解けた様子になっていました。(H・K)



バルーンリレーの様子



『多文化ほっとサロン/土曜こども学習会』(寝屋川市)



寝屋川市国際交流協会内多文化共生事業のひとつとして、「多文化ほっとサロン」は外国人と日本人との交流を目的として、さまざまな行事に取り組んできました。とりわけ、1年半前から外国にルーツをもつ子どもたちが急増し、日本語学習や教科学習また高校への受験勉強などの要望が強くなり、土曜日の午前中に学習会を毎週開催しています。

この学習会では、子どもたちの学習が中心ですが、送迎してきた保護者など大人の学習者の参加も増えてきました。現在参加者は12名と徐々に増えてきています。

また、毎月の行事として、昨年11月には折り紙講習会、12月にはフラワーアレンジメントと切り絵講習会、1月にはケーキ作り、2月にはお国自慢音楽会、3月には京都金閣寺、太秦映画村への社会見学、4月には世界のランチアラカルト(フィリピン/バナナ春巻き、中国/揚げ物、タイ/グリーンカレー、バングラデシュ/マッシュポテト)、5月には多文化フェスタへの参加(インドネシアの民族楽器「アングルン」の演奏・子どもたちの民族衣装ファッションショー)など行いました。また、6月には世界を知ろう楽しもう会、7月には浴衣を楽しむ会など、多彩な行事を計画してきました。これらの行事の中で、外国人の大人や子どもたちは楽しそうに交流しながら日本文化にも親しんできました。回数を重ねるうちに、お互いの間に信頼関係も生まれ、ほっとできる自分たちの居場所ができてきているように思います。

また、日本語講師のためのブラッシュアップ講習会も4月～6月に計5回行いました。その中では日本語教授法の基礎などをさまざまな実践を通して、具体的に現場で活かせるような有意義な研修ができました。何よりも、市内の日本語講師関係4団体が一堂に会し、交流ができたことが大きな成果となりました。そして今後もさまざまな市内の情報交換をして行くことになりました。



これからもいろいろな行事を企画し、外国人も日本人もみんなが楽しく交流でき、共生の輪が広がっていければと思っています。
(多文化ほっとサロン代表 鶴丸志よう子)

会 場 : 寝屋川市民会館 (寝屋川市秦町41-1)

問合せ先: 寝屋川市国際交流協会 Tel: 072-811-5935 Fax: 072-811-5935



『多文化にふれる えほんのひろば』(おおさかこども多文化センター主催)
～出会ってわくわく! いろんなおはなし、せかいのいろんなおともだち～
日時: 2013年9月7日(土)、8日(日) 午前11時～午後4時
場所: 大阪市立中央図書館 5階
大阪市西区北堀江4-3-2(地下鉄 西長堀駅7番出口すぐ)
詳しいことはP8をみてね!!



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑪「カンクン、コスメル島」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

メキシコは西は太平洋、東はカリブ海という大きな海に挟まれているためブラヤ(海岸の意味)と呼ばれる、海を楽しめるスポットがたくさんあります。その中でも毎年 300 万人の人が訪れる世界有数の大リゾート地カンクンに行ってきました。ここは日本からも新婚旅行で多くの人がやってくることで有名で、平均気温は27度。近くにはチチェンイツァーやトゥルムというマヤ文明の重要な遺跡があり、これらとセットで訪れる観光客も多くいます。また、セノーテという海につながった透明度の高い泉がカンクンの位置するユカタン半島にたくさん点在しているため、カンクンを中心としたこの地域には多くの人が訪れます。カンクンはユカタン半島の東の端にあるのですが、メキシコ・シティーから飛行機で2時間半、ホテルゾーンとセントロ(ダウンタウン)という二つの中心街があり、カリブ海に面したホテルゾーンには 100 余りの豪華ホテルが林立しています。

ホテルに到着するとすぐ水着に着替えて海に直行。そのあまりの美しさに一瞬、息をのみました。どこまでも続くパウダー状の白砂のビーチにエメラルドグリーンの海が広がっています。その日はとても波が高く、泳ぐというより波乗りをしたほうがよさそうだったので、大きな波がやってくると飛び上がるという、



ボードを使わない(というより使えないのですが)波乗りをして海に遊んでもらいました。

次の日はカンクンから船で1時間のイスラ・ムヘレスという全長8キロの小さな島に行きました。ここにあるブラヤ・ノルテというビーチは遠浅で波もなく、ゆったりと泳ぐことができました。

カンクンで4泊したあとは、バスで南に約1時間半のブラヤ・デル・カルメンに。ここはカンクンとは違ってこじんまりとした静かなところで、カンクンの喧騒を離れてのんびりとするには適している場所です。ここでは3泊したのですが、2日目に船で45分の島コスメルに行きました。コスメルは長さ53キロ、幅14キロのメキシコでは一番大きな島で、透明度の高い海が世界のダイバーを魅了しています。しかし、ダイビングまでできなくても、シュノーケリングだけでも十分に楽しめる海で、赤、青、黄色と黒、白に緑と、色とりどりの宝石をちりばめたような海の中は本当に美しく、はるか昔、幼稚園の学芸会で童宮城の乙姫様になってお遊戯をしたことを思い出してしまいました。ここコスメルの海はカンクンとはまた違って群青、青、エメラルドグリーン、緑、薄緑と微妙なグラデーションを描いていました。白い砂浜に座って打ち寄せる波の音を聞き、さわやかな海風にふかれながらこの海をぼんやりと眺めていると、時のたつのを忘れてしまい、決しておおげさでもなんでもなく、生きててよかったなあと考えてくるのでした。あまりに美しい光景に包まれて、ゆったりとほぐされていく心と身体を感じながら、命あることの至福とでもいうのか、ただ単純に、生きていられることの幸せをカリブの海の美しさが私に教えてくれたのだと思います。

メキシコに来て早10ヶ月、いくら努力をしてもなかなか上達できないスペイン語にあとせりと苛立ちを覚え始めていた私でしたが、グラデーションの海は、「生きてる限りなんとかなるよ。もうちょっと頑張ってみたら」と、言ってくれているような気がして、ちょっぴり元気ができました。





ころちゃんお役立ち情報（４）

1 日本語指導に役立つ教材(前回の続き)

	機関名／教材名／URL	内容／対応言語
5	津市教育委員会 「津市小中学校作成教材」 http://www5d.biglobe.ne.jp/~jikanwar/nihongokyozaai/nihongokyozaai2.html	○ 平仮名を母語と関連づけて学べる教材。 ○ 中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語 フィリピン語、ビサヤ語、イロゴ語、モンゴル語 インドネシア語、タイ語、英語
6	屋代瑛子のお話コーナー 「もっと たのしい ひろこさんの たのしい にほんご」 http://members3jcom.home.ne.jp/hirokosannhg/ohana-shi-top/ohanashi.htm	○ 「ひろこさんのたのしいにほんご」(凡人社)の続編。子どもと対話しながら日本語を学べる。
7	東京都新宿区作成 日本語指導ハンドブック1 東京都八王子市作成 日本語指導ハンドブック2 http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/nihongo_shidou.htm	○ 絵が分かりやすく、補助的な教材がきれいにできている。 授業案形式で、外国人児童生徒の特性と指導上の注意点も入っている。
8	こどもの日本語ライブラリー http://www.kodomo-kotoba.info/	○ 初期レベルの子どもの指導の羅針盤となる指導計画例、現場の指導上のヒントとなる内容を集めたビデオライブラリー、教科や場面で検索できる語彙や教材データベースなどがある。
9	国際交流基金日本国際センター 「みんなの教材サイト」 http://minnanokyozaai.jp	○ 日本語指導のための教材作成を支援するサイト。

2. 学校文書作成に役立つ教材

	機関名／教材名／URL	内容／対応言語
1	大阪府教育委員会 http://www.pref.osaka.jp/jidoseitoshien/tonitimae/index.html	○ 大阪府内の小学校入学の説明。 ○ 英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語 ポルトガル語、タイ語、フィリピン語、ロシア語 ベトナム語
2	ピアノにほんご http://pianihongo.org/	○ 多言語の教材資料や日本語教材や大阪府教育委員会作成の学校生活に必要な多言語資料がある。
3	豊橋市教育委員会 「外国人児童生徒教育資料」 http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp	○ 中学校数学の対訳教材、指導参考資料、通知票等。 ○ スペイン語、ポルトガル語、英語、中国語
	滋賀県国際交流協会 「多文化共生学校づくり支援サイト」 http://www.s-i-a.or.jp/tabunka	○ 多言語版の時間割、校内表示などを作成できる。 ○ 中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語 フィリピン語、英語



イベント情報 ～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

▼『多文化にふれる えほんのひろば』

～出会ってわくわく！いろいろなおはなし、せかいのいろいろなおともだち～

(子どもゆめ基金助成事業)

日本の絵本・外国の絵本が約 600 冊ずらりと並び、自由に読んでもらえます。

おとなも子どもも、絵本を通じて、いろいろな国のお友だち・身近な多文化に出会いませんか？

外国のお知り合いも誘ってぜひどうぞ！

【日 時】 2013 年 9 月 7 日(土)、8 日(日) 11:00～16:00 (時間内出入り自由)

プログラム:

7 日 14:00 「多言語おはなし会」 外国にルーツをもつ高校生・子育て中のお母さんたちによる読み聞かせ

8 日 13:00 「お話のはじまりのお話」 絵本翻訳家・三浦恭子さんによる南アフリカの人、暮らし、おはなし

14:30 「おはなしと音楽でペルーを感じてみよう」 “グループ・ナスカ”によるペルーのおはなしと踊り
両日とも、「世界の文字で名前を書いてみよう」「さがしてみよう！わたしの・ぼくの“かまきりっこ”」のコーナーがあります。

【場 所】 大阪市立中央図書館 5階 (大阪市西区北堀江 4-3-2)

地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅7番出口すぐ

【参加費】 無料 (だれでも参加できます。申し込みも不要です。)

【後 援】 大阪市教育委員会、大阪府教育委員会



▼ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センター 共催セミナー [3回シリーズ]

最終回「外国につながる子どもたちのキャリア形成を考える

～夢や目標に向けて(仮題)～

【日 時】 2013 年 10 月 26 日(土)14:00～16:00

【場 所】 ヒューライツ大阪・セミナー室(大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8F)

【報告者】 坂本 久海子さん(NPO法人愛伝舎理事長)

金月 由紀子さん(事例報告者・夜間中学教員)

【資料代】 500 円(おおさかこども多文化センター、ヒューライツ大阪の会員は無料です)

【定 員】 40 名(先着順)

【問合せ・申込み】 ヒューライツ大阪 Tel:06-6543-7003、Fax:06-6543-7004、E-mail: webmail@hurights.or.jp

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼ 味 味 味))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』
(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

